

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	緑内障性視神経症の OCT による形態変化と視野検査による機能変化の対応についての研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2012 年から 1 月から 2025 年 12 月までの間に当院を受診された緑内障、視神経低形成の方	
③ 概要	
<p>緑内障は視神経が障害され、視野欠損を生じる病気です。視神経の評価には光干渉断層計（OCT）という機器を用いて、神経の厚みを測ったり、視神経の線維を観察したりする検査を行います。一般的には OCT での異常が、視野検査の異常に先行すると言われています。しかし、その関連については未知なことが多いのが現状です。OCT の結果と、視野検査で得られる視野感度、中心窩閾値（視野中心部分の感度）との関連を明らかにし、緑内障の経過観察に役立つ知見を得ることが本研究の目的となります。</p>	
③ 申請番号	2017-0085
④ 研究の目的・意義	<p>緑内障は、我が国における失明原因の第 1 位の眼疾患で、社会的に重要な疾患です。40 歳以上の日本人における緑内障有病率は、5.0%であることが分かっています。緑内障は視神経乳頭や網膜神経線維層に形態的变化（視神経乳頭辺縁部の菲薄化や網膜神経線維層欠損、網膜内層厚の菲薄化）と機能的変化（鼻側階段、弓状暗点などの緑内障に特徴的とされる視野変化）により診断されますが、一般的には形態的变化が先行するとされますが、全てがその限りではなく、その相関については明らかにされていないことも多いです。本検討では光干渉断層計（OCT）による網膜内層厚菲薄化や OCT で直接観察できる網膜神経線維欠損といった形態的な変化と、ハンフリー視野計による視野欠損、視野感度や中心窩閾値といった機能的な変化との関連を明らかにすることを目的としています。生涯にわたって生活の質（QOL）、視覚の質（QOV）を保つという緑内障治療の目的を達するためには、これらの解明が非常に重要です。</p>
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>使用するデータは、個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。他の機関へ情報を提供することはありません。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公開されることはありません。</p>

⑧利用または提供する情報の項目	診療録に含まれる眼科検査データを用いる。
⑨利用する者の範囲	新潟大学 眼科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	本学：新潟大学 眼科 准教授 赤木忠道
⑪お問い合わせ先	所属：新潟大学医学部眼科学分野 氏名：飯川 龍 Tel：025-227-2296 E-mail： arasan@med.niigata-u.ac.jp